

紫明の窓

発行：京都鞍馬口医療センター

編集：広報委員会

2017年11月 第3号



独立行政法人地域医療機能推進機構
京都鞍馬口医療センター

〒603-8151 京都市北区小山下総町27番地
TEL 075(441)6101代表 FAX 075(432)0825
URL <http://kyoto.jcho.go.jp>

「選ばれる病院」をめざして

京都鞍馬口医療センター

事務部長 林 卓男



当院は昭和21年7月に健康保険鞍馬口病院として開設され、はや70年余にわたりこれまで京都市北部の地域医療の中核病院として、患者さんを中心にした質の高い医療を通して地域・社会に貢献してまいりました。

これまで地域で開業されている数々の医院(クリニック)、診療所、病院そして介護施設の先生方に支えていただいた賜物と感謝申しあげます。

2025年の超高齢化社会に向け、これからは院長を先頭に職員全員が同じ志を持ち、スムーズかつスピーディーな医療連携がより一層保持できるよう精進してまいりたいと考えています。

私たちの病院が目指すところは、昨今の厳しい医療情勢を乗り越え、地域医療推進のもと地域包括ケアの要として、地域の皆様から無くてはならない「選ばれる病院」を目指し日々努力を重ねて参ります。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



医師紹介

第二回は、

大野 智之先生を紹介します。



私は2016年4月より
当院で勤務しています。

大学卒業後20年余り、
様々な病院勤務や海外留学
の経験を活かし、地域の患

者様のニーズに沿った医療を提供したいと思えます。
現在医療の進歩は目覚ましく、私の専門である消
化器内科の領域でも随分変わりました。

がん診療における進歩（NBIによるより微小な
がん病変の早期発見、早期消化管がんに対する内視
鏡的粘膜切開剥離術、肝がんに対するラジオ波焼灼
術など）、がん発生予防に対する進歩（胃がん発生抑
制目的のヘリコバクター・ピロリ除菌療法。慢性C
型肝炎に対する非インターフェロン治療など）、各種
難病に対する治療の進歩（潰瘍性大腸炎に対する
生物学的製剤の導入、がんに対する化学療法法の進歩
など）など様々ですが、より最新の医療を患者様に
提供すべく日々スタッフ共々精進しています。

”お腹の調子が悪い“ 検診で引っかかった”方はた
めらわずに当科を受診していただければと思います。

当院の感染対策室

当院は2016年6月より感染防
止対策加算1を算定し、私は感染管
理認定看護師として医療関連感染の
防止に関する業務に専従しています。
私が所属する感染対策室と感染対策
チームは、医師、薬剤師、臨床検査
技師、看護師、事務職員を含む多職
種で構成され、それぞれの専門性を
活かし感染対策に関する様々な相談
に対応して問題の改善を図っていま
す。日頃より各病棟のリンクナース
や、放射線科・リハビリテーション
科・栄養管理室のリンクスタッフと
協力して各部署の感染対策の推進と
充実を目指し活動しています。また
院内だけでなく、地域の医療機関と
も連携して感染対策に関するカン
ファレンスを定期的に開催しており、
今年度はそれぞれの施設を訪問して
実情に合わせた感染対策の評価と検
討を行っています。



ですが、今後は病院、施設、住まい
のどの場所でも安心して療養してい
ただけるよう、地域の医療・介護に
関わる皆様と共に、地域の感染対策
を高められるよう活動したいと考え
ておりますので、感染対策に関する
疑問があればいつでもご相談ください。

看護部・感染対策室・感染対策チーム

高谷あかね

〽️ 医院紹介 〽️

自井 医院

自井医院 内科・胃腸科・肛門科
理学診療科・外科

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:30	○	○	○	×	○	○	×
17:00~19:30	○	○	○	×	○	×	×

TEL 415-2221

平成3年9月に健康保険鞍馬口病院（現京都鞍馬口医療センター）外科を退職し紫野にある建勲神社の隣に開業しました。開業以来、地域の「かかりつけ医」として、専門の消化器疾患、外科領

域を中心に、可能な限りあらゆる年齢層を対象にすべての疾患の診療に取り組んでいます。レントゲン、超音波検査、胃および大腸内視鏡検査、その他最先端の医療機器を導入し、病気の早期発見、予防に努めています。さらに専門性の高い診察・検査・診断・治療が必要な時は当院の連携病院である京都鞍馬口医療センターに紹介させていただきます。

病院勤務医時代は消化器外科医として、悪性疾患の手術・治療・ターミナルケアに携わり、また、長年にわたり消化器・乳腺外科を専門とし、救命センターの救急専門医としてあらゆる疾患をてがけてきました。その経験を生かし、今は一開業医として、自宅で療養を希望され自宅で最期を迎えようとする患者さんには、在宅医療、在宅看取りを行います。

開業して年数が経過すると、一人の患者さんを長く診るようになります。従来の紙のカルテを使っていては、患者さんの貴重な過去のデータを十分に役立てることができないと感じていました。縁あって当方で診させていただく患者さんのデータを末永く残し、また何か危急の時には活用できるように、2003年4月から電子カルテダイナミクスとファイリングソフト R S B a s e を導入しました。

病診連携とはホームドクター（かかりつけ医）と診療所との密接な連携によって、患者さんに必要な医療サービスを受けてもらうシステムのことです。

診療所では主に外来で診察・検査・診断・治療を行っていますが、より精密な診察・検査・診断・治療が必要な時、専門性が高まり、チーム医療が必要になってきます。このような時、診療所では連携病院に、患者さんを紹介します。

かかりつけ医として患者さん個々の状況を考慮したうえで、あらゆる相談に対応できるよう日々心がけております。レントゲン、超音波、内視鏡などの診断機器を充実させるとともに、当院では行うことのできないCTやMRIといった高画像検査は、近隣の総合病院と連携し迅速に対応しております。

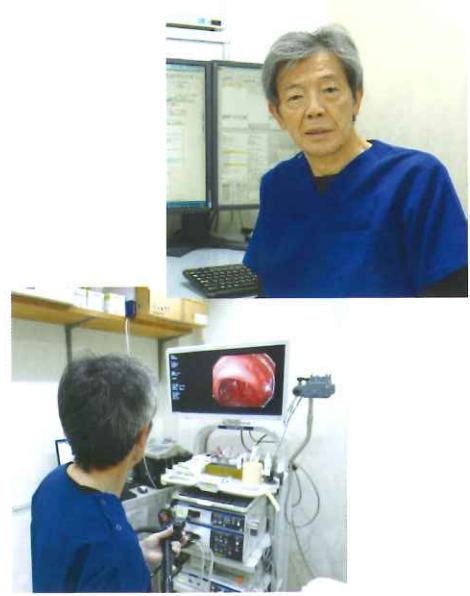
このように全身をトータルに診療する「かかりつけ医」として、ご家族みなさんの健康を管理いたします。

これからも京都鞍馬口医療センターのご協

力をいただき、地域の皆さんの身近な立場で、患者さんが抱えるいろいろな問題に相談にのり、解決できるような心がけていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**私は「かかりつけ医」として
下記事項を心がけております。**

- 1) かかりやすい
- 2) 医師との人間関係を築きやすい
- 3) 他の医療機関や介護・福祉などとうまく連携している
- 4) 何でも相談にのってくれる
- 5) 地域全体の健康を守っている
- 6) 往診をしていて、その地域のことをよく知っている
- 7) 地域で何が問題になっているか、調査をおこなっている
- 8) よい医療を提供するために、住民の意見をしっかりと聞いている



リレー記事

第3回目 B8病棟

京都鞍馬口医療センター最上階にあるB8病棟をご紹介します。

B8病棟は血液内科に特化した42床の病棟です。

他の病棟と違い、血液疾患の治療が出来るよう無菌室が設置されています。

血液内科の患者さんが府内はもとより遠方からも来院され治療を受けられます。

血液疾患における治療の最たるものは「移植」です。

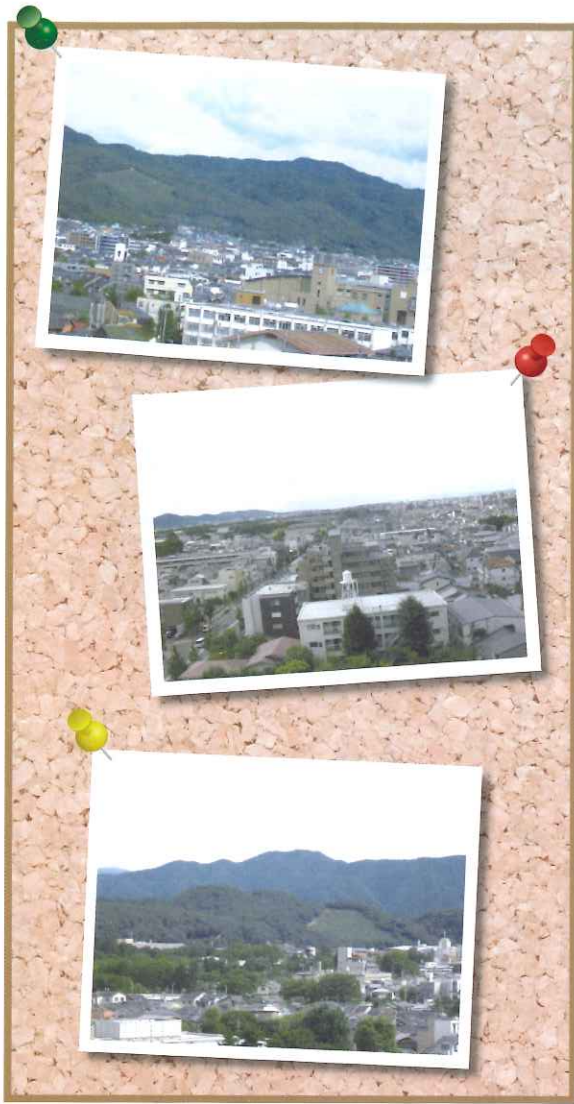
ディネーター・社会福祉士・理学療法士・管理栄養士など医療チームで移植前より介入し、移植後、退院まで関わっていきます。

様々な副作用が出現しますが、ひとつひとつの症状や不安に寄り添い、サポートを行っていますので安心して治療に臨んで頂くことが出来ます。

また、入院中の患者さんを癒すのはまさに「紫明の窓」の由来である風光明媚・山紫水明の都である京都の景色です。北の窓・南の窓それぞれに最上階ならではの四季折々の景色を見ることが出来ます。

この恵まれた環境の中、よりよい医療・看護を提供していきますのでよろしくお願いたします。

看護部 看護師長 赤尾 順子



新入職医師紹介



越野 幸子 (放射線科) (平成29年7月1日付)

まだまだ修行中で皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、一步一步精進したいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



小原 雄 (放射線科) 若輩者でもあり、皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、少しでも皆様のお役に立てるよう、精一杯努力していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。



板東 瑞樹 (麻酔科) 新しい環境に翻弄されながらも徐々に慣れて、楽しく働かせていただいております。何か皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、少しでもお役に立てるようできる限り頑張っております。よろしくお願い申し上げます。



印藤 孝介 (麻酔科) (平成29年10月1日付)

のんびりすることが好きで、心穏やかな人生を送ることを目標にしています。皆様によりよい麻酔を提供できるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

市民公開講座

京都鞍馬口医療センター 第54回 市民公開講座
9月10日に開催いたしました!



次回予告 第55回 市民公開講座

平成29年12月10日(日)
を予定しております。

担当：耳鼻咽喉科医師、歯科・口腔外科医師

歯科・口腔外科について

平成29年11月より予約診療を開始いたします。